

Jリーグクラブの下部組織の存在意義

1220437 小原 剛

高知工科大学 経済マネジメント学群

指導教員 上村 浩

研究背景

Jリーグのアカデミー運営はJリーグプレイヤーの輩出を目的とし、日本サッカーの強化に繋がる活動を推進している。その中でも三位一体の強化（指導養成、ユース育成、代表強化）を掲げ、活動に取り組んでいる。このように、若い世代の育成は、リーグ全体にとって重要な課題であることが理解できる。しかし、「ユース育成」が、各クラブに当て得る影響は十分に明らかにされていない。

研究目的

上述のとおり、Jクラブが下部組織を運営するにあたってクラブ側にはどのようなメリットがあり、どのような影響を与えているのかについては十分に検討されていない。これを踏まえ、本研究では、「ユース育成」が各クラブに各クラブに与える影響を検証し、クラブ側が育成に関して投資する意義について検討することを目的とする。

研究方法

2017年～2019年の3シーズンのJ1クラブ13チームが調査対象とし、毎年シーズン開始時に各クラブ公式サイトで新体制発表会の登録メンバーの中で、ユース出身者を計測する。

また「アカデミー関連収入」「営業収益」「スポンサー収益」「入場者収益」「Jリーグ分配金」「総資産」などの6つの要素について、これらと、各クラブの「ユース出身者数」との関係について分析する。

結果

2017年～2019年までの各クラブの「ユース出身者数」に対し、アカデミー関連収入」「営業収益」「スポンサー収益」「入場者収益」「Jリーグ分配金」「総資産」の要素はどれも相関がないことが明らかとなった。

考察、結論

検証結果から、各クラブのユース出身者数はクラブの営業収益の主要項目に影響を与えているとは言えない。一方、ユース出身者数がクラブ経営の金銭的側面に対して関与していないとすると、データでは観測しづらい側面（質的側面）に影響を与えている可能性がある。ここでいくつかのケースを見ると、例えば、元川崎フロンターレ出身の三笥薫選手の場合、出身クラブを離れた後も、そのクラブに影響を与えていることがわかった。このことから、下部組織出身である生え抜き選手の活動は移籍後でもクラブに影響を与え、このことは下部組織の段階で早期から質の高い選手の獲得などの面に影響している可能性がある。